

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	改正前の理念を継続しており、現在地域密着型サービスとしての理念を作成中である。		地域密着型サービスとしての理念を全職員で話し合い、事業所独自の理念を作り上げることが望めます。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	改正前の理念ではあるが、理念の唱和をミーティングで行い職員間で共有して、実践している。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入してない。一つの保育園の運動会、お遊戯会、クリスマス会に参加している。市主催のお釈迦祭りを見に行っている。		町内会に加入して、地域の一員としての活動に参加され積極的にグループホームの啓発に努力され、地元の人々との交流に努めることを望みます。
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価の改善は、6月1日に改善シートを作成し職員と14日にミーティングして、改善について話し合っているが、全部の改善に至ってない。今回の自己評価は、全職員が参加しての評価になってない。		自己評価は、日頃のサービスを自ら振り返り、評価、改善を見出す意義からも全職員で話し合い、取り組んでいかれることが望ましい。又、一回の改善についての話し合いに留まらず、再三の話し合いを重ねて改善されることが望まれます。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は現在 1回のみ開催され、事業所からの報告にとどまっている。		運営推進会議を概ね 2ヶ月に 1回定期的に開催されることが望ましい。又単に報告や情報交換にとどまらず、会議を通じて率直な意見をもらいそれをグループホームのサービス向上に具体的に活かされるよう期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
		<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村の協力をいただき、介護教室を開催する計画をしているが、実践には至っていない。</p>		<p>市町村への働きかけを再三行い、事業所の行事に参加してもらえよう 期待します。</p>
4.理念を実践するための体制					
		<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>2月に1回グループホーム南の家族便りを発行して日常生活を知らせている。遠方の家族等には便りと一緒に手書きで日常生活を知らせている。</p>		
		<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を年に二回(定期的でない)開催して、意見を職員会議に反映している。面会などでの家族の意見はその都度申し送り等で伝達している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者の交代の時は、1ヶ月の引継ぎ期間がある。新人採用や職員異動の時は、入居者に紹介して、入居者に教えてもらうというコミュニケーションの取り方で、馴染みを深めていっている。</p>		
5.人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修計画はないが、全員参加の職員研修は実施されている。研修報告は、ミーティングの時に発表して、共有するために報告書は、回覧し印をするようにしている。新人職員には、教育訓練として、2日間担当者がついて、教えている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他のグループホームと相互訪問をしてサービスの参考にしていく。大隅地区のグループホーム協議会にも参加している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人と家族にグループホームの見学をしてもらい、職員が家へ訪問して、本人と面会などを行っている。入居時には、家族の面会を密に行っている。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、入居者とともに、調理、盛り付け、後片付けなどを行い、継続的な支援からお世話をするのではなく、生きることを支援するという姿勢であり入居者から教えて頂いているという関係を築き、本人ができることや可能性に着目している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者が、何か食べたいと希望があれば、一緒に買いに出かけたり喫煙の希望者には、喫煙場所を設けて、喫煙できるようにしている。トイレに行きたいのを察知して、トイレに誘導を行っている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族の意見を聞き、1ヶ月に1回、ユニット合同でのミーティングや各ユニットでのカンファレンスにて、介護計画を全職員で作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>1ヶ月に1回のカンファレンスのとき、全職員で検討して見直しをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じ て、事業所の多機能性を活かした柔軟な支 援をしている	入れ歯を調整するため 歯科医に往診をお願いして いる。職員は、家族の要望があれば、病院受診に付 き添っている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得 られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援し ている	ほとんどの入居者は、藤後病院に通院している。 専門的な治療の必要な方は、それぞれの専門医に受 診している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、 できるだけ早い段階から本人や家族等ならび にかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員 で方針を共有している	平成 18年 9月に、家族の希望があり 終末期の対応を 行っている。家族、主治医との連携がとれ、職員全員 で方針を共有できている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるよ うな言葉かけや対応、記録等の個人情報の取 り扱いをしていない	各部屋の開閉は、了解をもらって行い、職員は、穏や かな声かけを行っている。しかしながらプライバシーの 確保の研修は行っていない。		プライバシー保護のマニュアルを作り 勉強会を開催し て、全員の周知を図られることが望ましい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切に、その日 をどのように過ごしたいか、希望にそって支 援している	入居者それぞれの個性のパターン テレビ鑑賞、歌唱、 絵画、読書 に合わせて、支援している。喫煙したいとき は、喫煙場所で、自由に喫煙できる支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できるだけ旬の食材を、採り入れている。入居者と職員が、一緒に食事の準備や片付けをしている。嫌いな食べ物のある方は、好きな食材に変更している。食材が刻みすぎになっている。		せっかくの季節を感じさせる食材が、刻みすぎにならないよう多少の食感を大切に工夫されることを望みます。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3～4回は、入浴できるように声かけを行い、希望する時間に合わせて入浴している。入浴嫌いの方には、入浴予定を約束して誘導している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作り、洗濯物たたみ、茶碗洗い、畑仕事などそれぞれできる方に声かけして、職員と一緒にしている。団子作り、金柑漬け、切り干し大根など、入居者に教えてもらいながら作っている。歌唱、ダーツ、踊り、ボール投げなどレクリエーションに取り入れて、楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くのショッピングセンターに歩いて買い物に行っている。花摘み、海、イルミネーションの見物にドライブしている。時々、グループホームの前庭で、おにぎり弁当を作って、昼食を取っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2ユニットで5人ほど外出傾向にあり、入浴介助などで、職員の目が少なくなったときに、鍵をかけている。		ケアハウスの職員の協力、近隣の方々へ協力を呼びかけて、鍵をかけない工夫が望ましい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災、台風、不審者の対応マニュアルはある。火災の避難訓練は、近隣の方々の協力をもらい行なわれている。		水害、地震なども非常災害に関する具体的な計画を立て、非常災害時の通報・連携体制を整備し、それらを従業者に周知するとともに定期的に非難・救出の訓練を行うことが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、併設のケアハウスと同じであるが、時々、食材を変更している。水分チェックは、できている。		栄養士に変更した献立のカロリー計算を、検討してもらいたいことが望ましい。
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昼間のほとんどを過ごす居間兼食堂が中央にあり、調理の様子が見え、料理の匂いがして、穏やかな時間が流れている。端午の節句が近いので、鎧兜を飾り、庭には鯉のぼりがたなびいていて、季節感が感じられるホームである。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の居室の入り口には、手作りの暖簾が掛けてある。段差のある居室には、入り口に、スロープを作っている。入居者の家族の協力で、使い慣れた家具などが持ち込まれていて、各居室が、居心地よく感じられる。		